



独立行政法人 国立病院機構

鹿児島医療センター

システムの導入にあたり、部門内だけではなく院内全体の使い勝手を重視
部門の統合に低価格、柔軟性を兼ね備えた STELLAR を選択



NazcaRIS 使用風景

導入経緯

電子カルテ導入を機に、医師も使いやすいシステムを検討

これまでフルオーダーリングシステムと他社 PACS を導入していましたが、平成 24 年 7 月の電子カルテの導入を機に、PACS を含めた部門システムの見直しをしました。目指したのは、部門内だけでなく全体としての使い勝手を重視すること、そして当院の三本柱である循環器・脳卒中・がんの診療科がストレスなく診療を行えることでした。

電子カルテには、いくつかの問題点がありました。例えば、部門内では非常に使いやすいが、各部門をまたいで横断的に使用する医師の立場からすると入り口が増え、操作性が異なり不便という点。また、他の部門システム同士との連携がなく情報共有が困難な点、ライセンス制で端末が制限される点等の問題もありました。予算的にも従来の部門システムの構築方法では、多くの部門システムの導入を諦めるという点もありました。

そんな中、当院のニーズに合ったアストロステージの診療データ統合管理システム STELLAR を紹介して頂いたのです。費用面も安価でしたので、放射線科システム・PACS・RIS・生理検査システム・エコーシステム・内視鏡顕微鏡システム・カテシステム・レポートシステム・スキャンシステム・デジカメ画像システムを統合し、全てアストロステージ製とし、導入したい部門を全て導入することができたのです。

部門の統合化、今後の拡張性発展性が決め手に

他社のシステムとも比較しましたが、多くの部門を統合できるメーカーは他になく診療データ統合管理システム STELLAR は明らかに他社よりも秀でていましたし、今後のシステムの発展性や拡張性が見込めました。ユーザーの要望を実現させようという会社の姿勢にも魅力を感じ、病院と一緒に今後も発展していけるなと確信し、アストロステージのシステムを導入することにしました。



導入システム

	DICOM 画像管理システム	Nazca
	RIS システム	NazcaRIS
	診療情報統合システム	STELLAR

導入効果

部門統合化による情報集約で患者把握が容易に

各部門を統合することで、部門間の情報共有が自由になりました。これまで部門に埋もれていた情報を STELLAR に集約し、全検査結果が時系列で表示可能になり、患者様の情報把握が容易になりました。

以前は統合が困難であった生理検査室にあるほぼ全ての医療機器を直接アストロステージ製品に接続することができ、大幅なコスト削減に繋がりました。エコー機器は、エコー室のみならず、外来・病棟・手術室等のエコーの接続が可能で、動画も含めて NazcaView にて再生が可能です。内視鏡や顕微鏡も直接接続ができ表示可能です。

PACS には静止画と動画を保存でき、NazcaView にて両方を同一ビューアにて同時再生可能で非常に便利です。そのためのビューアは端末を選ばず、院内のどの端末でも表示再生可能なのも嬉しい点です。

当院は循環器のカテーテル治療（PCI）が多いですが、心カテ動画（OCT、IVUS も含めて）、冠動脈 CT、心筋シンチ、心エコー、ポリグラフレポートを同時に NazcaView に表示できるため、カテ中に情報が得やすく助かっています。カテに関しては、カテ台帳、看護記録を一元的に管理し、カテ室のペーパーレス化も実現しました。カテ中に看護師が物品のバーコードを読み込むと、それが看護記録に反映され、さらにカテ台帳および RIS に反映されます。ポリグラフも電子化することができ、数値はカテ台帳と自動連携するとともに、波形画像は DICOM 化し、NazcaView にて閲覧可能になりました。

レポート作成も、放射線、エコー、手術室、カテ、どこからでも可能なため、作成するための端末を選ぶ必要がなくなりました。また、多くの医療機器やシステムと連携する際、PDF 等のレポートだけではなく、数値データも同時に連携し、集約可能になりました。検体検査結果、各種レポート、エコー数値、放射線画像、スキャン画像、病理検査報告書、細菌検査報告書、投薬データ、デジカメ画像、他院取込画像等全てを時系列表示することにより、患者様の情報を瞬時に把握可能となり、診療がスムーズになりました。電子保存システムも構築して頂き、スキャンにより完全ペーパーレス化されました。

当初思い描いていた、システムが全て統合され、患者様の情報を一元的に閲覧できるのはもちろん、数値データによる膨大なデータベースも構築されました。院内どこでも同じ作業ができるため、画像閲覧、レポート作成どれをとっても、目の前の端末でいつでも作業ができる、これはかなりの利便性でありました。

導入前の課題

- 各部門システムの統合
- 完全ペーパーレス化
- コストを抑えられるシステム

- STELLAR により、各部門システムが統合可能に
- 端末や場所を選ばずに仕事ができる環境・ペーパーレス化が低価格で実現

導入後の効果

鹿児島医療センター：システム導入時期 / Jul 2012



診療：循環器病及びがんの診療を柱とし、病む人と家族の目線に立った、分かりやすく、質の高い医療を地域の医療機関と連携・機能分担しつつ全職員協力して提供します。

教育・研修：質の高い医療従事者の育成のために、医療従事者の基礎・生涯教育を推進します。

臨床研究：地域、国立病院機構ネットワークと協力しつつ臨床研究を推進し、医療の質の向上に貢献します。

所在地：鹿児島県鹿児島市城山町 8-1

病床数：366 床

診療科：第一循環器科・第二循環器科・心臓血管外科・脳血管内科（神経内科）・外科
脳神経外科小児科・血液内科・糖尿病 / 内分泌内科・消化器内科・臨床病理科
泌尿器科・産婦人科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科



今後の方針

当院は、電子カルテ導入はゴールではなくスタートとしてとらえています。今後も使いやすいシステムへと常に発展し、診療を支援できるシステムを目指していきます。そのパートナーとしてアストロステージにも頑張ってもらいたいです。



今後の期待・要望

今後もユーザーを大切に、医療に貢献できるシステムをパートナーと一緒につくってほしいと思います。



システム構成図

